

2009年9月30日勉強会

福沢諭吉『学問のすすめ』初編～九編

参加者：嶋田 岩瀬 石堂 安達 中山 古川 十河祐子 久富

記録者 久富

【初編】

○ “天は人の上に人を造らず” の “天” とは？

・ “天は人の上に人を造らず” と言えり とあるので、アメリカ独立宣言を参考にしていたのかという意見が出た。天とはキリスト教的な天（創造主）All men are created equal. (by GOD)？

・ 儒教的な天では？という意見も出た。天とGODはイコールか？天＝神？？

普通に日本で神と言えれば八百万の神。果たして天と言っただけで福沢の意味するところは通じていたのか？という疑問も。これには、お天道さま、天照大神などがいたので大丈夫だったのではという意見が出た。天皇を超えた象徴的な “天” を設定する必要があったのでは。

【第二編】

○ “天は人の上に人を造らず” とあるが・・・

・ “学問が人の上下を造る” とするプラトンと正反対だという意見が出た。

単に皆が平等と言っているわけではない。その意味では現在一般的にとられている意味（すべて人間は平等だ）とは逆のことを言っているのかもという意見が出た。

○ “自由とわがままの境” について

・ 人に迷惑をかけなくてもわがままは駄目だというのはなかなか厳しい。では、ここで言う自由とは？何をもって自由と言っているのか、という疑問が出た。ならば、武士の切り捨て御免も自由なのか？

・ メンバーが紹介してくれた話では、柳田國男が幼少期に、道端で寝ていたよっばらいが注意されると「ここで寝るのは自由だ」と言ったのを見て、迷惑だと感じたという。ここから、当時はたとえ人に直接的に迷惑をかけているかいないかではなく、自分のエゴを押し通すことが自由だと捉えられていたのではないかと話合った。

・ 福沢は、“個人の自由だ” と押し通すための語として、“自由” が使われるのを恐れたのではという意見も出た。

○ p12 “学問とは、ただむつかしき字を知り～” について

・ 日本文化をかなり否定しているのでは。精神的なところは日本に依ると言っている立場

とは矛盾してはいないかという意見が出た。これに対し、否定とまではいかないのでは
と いう意見が出た。“実のなき”とまで言っているのは、時代背景もあるのでは。文学
などに目を向けるのではなく、現実を見なければというような、相当の危機感があつた
のではないかという意見が出た。

○権利と義務の違いについて

権利・・・誰かからの許しが必要	}	権利を用いるのに“天”という許しが必要だ だったのでは。
義務・・・自分からできる		

権利の本義は、権利=right=正しい。

福沢の言う right の訳⇒権理・権義。現代日本で言うところの権利⇒claim (要求する)。権
利という言葉の意味を間違って捉えている。

【第三編・四編・五編】

○“一国独立する”と考えたのはなぜか

- ・当時の状況から・・・今でいう“主権”を持つ。日本人が日本人自身の手で日本を治め
るため。当時は外国人（英国）が他国の政治の中枢に入り込んで他国（清）を動かして
いた。外国の状況を見て、日本が独立心を持つのが急務だと考えたのだろうという意見
が出た。

○“一身独立”は可能か？

- ・当時は藩閥政治・・・人材がいなかったからそういう体制を採らざるを得なかったので
は。現代の国民の気風はどう変わったか・・・
⇒お上の言うことにただ従うという気風は改められたが・・・福沢の言う一身独立が達
成できているとは言えない。むしろ批判だけはするが政府に依存している。
- ・“一身独立”を突き詰めていけば攘夷になるのでは？という意見が出た。
⇒外国に支配されないという意味では外国人排斥まではいかない。

○“一身独立”はどんな形か？

- ・ギリシアの市民は一身独立だろうという意見が出た。一人で生計をたてられるのも一身
独立ではという意見も。
- ・独立の意味・・・親元から独立するという意味とは違う。人の意見に左右されず、自分
でしっかりと考えられることを言うのではという意見が出た。

○“気風”を改めるとは・・・

- ・とても難しいことだという意見が出た。逆にその気風を改めてしまうと日本人が日本人
でなくなりはないかという意見も。例えば、外国人の授業では、反論・議論などがと

び交い騒がしい。教師と生徒は議論という場ではイーブンな立場と言える。日本は静かだとよく言われるが、日本では教師を“先生”と言い、自分はいくまでも教を請う立場だと認識しているからではないだろうか。

○福沢は一身独立できているか

⇒できているだろうという意見が出た。

一身独立とは・・・一人一人が国を守るための戦いに赴ける覚悟を持つこと。

アテナイの市民は戦いに参加することが政治に参加する条件。福沢の言う、今川義元のたとえはおもしろい。

【第六編・七編】

○p63 “自らが作りし法に従う～”とは

- ・現在はそれが達成されているのか？形式的にはそうになっているが・・・
- ・ホッブズ・ルソーのような社会契約論をなぞっている。
- ・独立するということは、社会から出るのではなく、社会の中で役に立つこと。公共心を持つこと。

○お上に従うのはだめだと言っているのに・・・

・米国人教師の例では、お上にただ従っている。この矛盾がおもしろい。現代日本において福沢が言っていたことが達成されているかというところあやしいという意見が出た。政府を批判するが政府にどっぷり依存している。。。

○なぜ法律に従わなければならないのか。なぜ法律を守っているのか？

ここでは法律を守ることについて各々話合った。

上記の問題については、罰せられるから法律に従っているという意見がほとんどだった。

- ・もし死刑が下されたとしてその判決が間違っていた時どうする？⇒逃げる
- ・間違った判決でも死刑に服することで国法を守る姿勢を見せたのがソクラテス。福沢も近いことを言っているのではという意見が出た。
- ・アウトローについて。日本人は良いイメージを持っている。(カッコいいなど・・・)
アウトローとは、破った時の覚悟をしている。日本人は1つの側面しか見ていない。逆に法を守ることにより自分が守られていると言える。
- ・約束を守るのと同じ感覚。日本人として生まれ、日本国籍を有する限りは守るものという感覚という意見も。
- ・最近時代劇が減ってきた（忠臣蔵・大岡越前など）・・・勸善懲悪の手本がなくなってきた。。。

【第八編・九編】

○ “一時の欲のために人の子を禽獣のごとく・・・” と言っているのは植民地主義の表れか

○ 現在は“人権第一”（個人主義）と言っているが福沢はそう言っているわけではない。
あくまでも人間関係・社会関係においてのことで、個人主義を言っているわけではない。

◎話し合ってみたいこと

ここで発表者安達くんからの問題提起について話し合った。

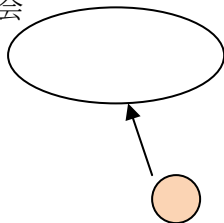
○ “人情が穏やかになる” について。

コミュニケーションツールがはるかに発達した現代ではどうか。

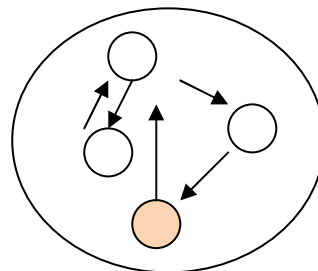
- ・ 実際、現在のつながりを持っている人間がするからややこしくなるのでは。
- ・ mixi や sns での関係は“人間交際”とは違うと思う。⇒では、実際知っている人間と繋がっているのと比べてはどうか？⇒たとえ知っていたとしてもそれは“人間交際”とは違うと思うという意見が出た。
- ・ ではどんなものが“人間交際”？という質問が出たが、それはこの勉強会みたいな繋がりだろうという意見で満場一致。
- ・ コミュニケーションツールが充実したことによって、便利になったが・・・
恋い焦がれの喪失。待ち合わせが下手になった。
- ・ 文明 civilization の civil は市民。文明は人間関係の発達により生まれてきた。⇒食事しながらメールをするというのはむしろ野蛮だと言える。時間・空間の隔たりをなくするという意味では文明的と言えるが本質はどうか・・・という意見が出た。
- ・ ブログ・カスタマーレビューについて・・・自分と似たような人と繋がる⇒生産性が無い！馴れ合いでしかないという意見が出た。一つのものごとについて、例えば書評をするにしても、批判する人間は実際にやってみると言いたいという意見が出た。
- ・ 異なる意見の人間が議論するためには掲示板やネットのやりとりは不可能。長く付き合っている人間関係の中において初めて議論が成立する。掲示板では相手が突然消える。
- ・ 批判するなら、然るべき時・場所で、自分の言ったことに対して責任がとれる状態であるべき。

○ society の訳語について・・・“社会”と“人間交際”ではどう違うか。

社会



人間交際



“社会”では個人が浮遊するイメージ。離れて society を見るような・・・

“人間交際”では自分も society の一員という意識を持ってものを見ることができる。

- ・八編で出てきた“独立”と孤独は違う。むしろ逆である。
- ・福沢はすべてをつかんで言っているのかという疑問が出た。言っているだろうと皆うなずいたが、儒教批判など、古き日本に根ざして言っているのかわからない。そのあたりが難しい。